



橋本健一郎氏
二月前半は、一月の中国
二・四に上昇、六カ月ぶり高
水準だったこと、一月の米A
D P民間雇用者数は二〇。

五万人増加、予想は一九・三万人増加した事など
のプラス材料もあったが、中国政府発表の一
月の中国製造業PMIは四九・四に低下、予想
の四九・六を下回ること、一月の米ISM非製
造業景況指数は五三・五に低下、予想の五五・一
を下回ったこと、サウジアラビアとベネズエラの
両石油相による会合が不調に終わったことなど
を嫌気しLMEアルミニ相場はDOWN、二月十五日時点で一・五〇一ドル(現物後場買い)と月
初価格から九ドルDOWNの前半締めとなっ
た。

後半は、中国人民銀行が対ドルでのレートト
を引き下げたことや、サウジアラビアが有力産
油国との協調減産を否定したことなどのマイナ
ス材料もあったが、中国の汪洋副首相、輸出入
の急減速が長期的な停滞につながらないよう
早急に対応とコメントしたこと、サウジアラビ
ア、ロシア、カタール、ベネズエラの四力国の生
産調整会談への期待感、一月の中国新規人民
元建て融資は一・五兆円に増加、予想は一・八
兆元だったことを好感しLMEアルミニ相場はU
P、三月二日現在でLME(現物後場)一・五
八八ドルと後半スタート価格から七〇・五ドル
UPしてのスタートとなつた。(TTT)

◆月間のドル/円レート (TTT)
一一一・九五→一一四・九五(円)

◆自動車生産台数
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は
前年比五・八%減の七二万一八八六台であった。

◆自動車販売台数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸
数は前年比〇・二%増の六万七、八一五戸であ
つた。

◆新設住宅着工戸数
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミニ新地
金が前年比六一・二%減の九四t、二次合金が
一三・一%減の一、三三五t、スクランプが三七・
一減%の四、九〇七t、アルミニ缶が三五一・二%

◆貿易関連指標

輸出
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミニ新地
金が前年比六一・二%減の九四t、二次合金が
一三・一%減の一、三三五t、スクランプが三七・
一減%の四、九〇七t、アルミニ缶が三五一・二%

LMEアルミニ、原油や中国の動向が焦点

橋本金属 橋本健一郎氏リポート②

増の五、〇五九t。
輸入

輸入は新地金が前年比二五・四%減の一〇
万一千、七七八t、二次合金が一四・一%減の九
万〇、九二九t、スクランプが六三・一%減の七
一三t、合金スクラップは四三・一%減の四、〇
九〇t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産
出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前
年比二・四%減の一四万九、四三二t。
日本アルミニウム合金協会発表のアルミニ
ウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前
年比二・二%減の六万三、八一九tであった。

■概況

【自動車生産】
一月の四輪車生産台数は七三万一二、八八六
台で、前年同月の七七万七、七五六台に比べ
て四万四、八七〇台・五・八%の減少となり、
二カ月連続で前年同月を下回つた。
【自動車販売】
一月の国内需要は三八万二、八七六台で、
前年同月比四・六%の減少であった。うち乗
用車三二万八、九九四台で前年同月比四・四
%の減少、トラック五万二、九〇九台で同六
五%の減少、バス九七三台で同三三・一%の
増加。
【輸出】
輸出は前年同月比一・八%の減少。(実績)

二月の国内自動車販売台数(軽は除く)は二
七万五、一六五台で前年比四・六%減。四カ月
ぶりマイナス。うち乗用車四・一%減、貨物九%
減、バス三七・四%増。

【住宅着工数】

・平成二八年一月の住宅着工戸数は六七、
八一五戸で、前年同月比で〇・二%増となつ
た。また、季節調整済年率換算値では八七・
三万戸(前月比一・五%増)となつた。
・住宅着工の動向について、全体として
同月比で貸家が増、持家、分譲住宅が減となつた。季節調整値については、前月比で持
家が増、貸家、分譲住宅が減となつた。
・利用関係別にみると、実数では、前年
同月比で貸家が増、持家、分譲住宅が減となつた。季節調整値については、前月比で持
家が増、貸家、分譲住宅が減となつた。
・住宅着工の動向については、全体として
平成二十六年四月の消費税率引上げに伴う駆
け込み需要の反動の影響力らの持ち直しが続
いてきたものの、足下では横ばいの動きとなつて
いる。引き続き、今後の動向をしつかりと注視
していく必要がある。(六面へ続く)

(四面より続く)

【アルミニウム二次合金 同合金地金等生産実績】

前年比二・二%減の六万三、八二九tと一六力月連續マイナス。出荷は五・一%減の六万三、一九九tと二四力月連續マイナス。

【アルミ圧延・押出品生産数】

二・四%減の二力月連續マイナス、一四万九、四三二t。

このうち、板類の生産は三力月ぶりにマイナス、出荷は二力月連續でマイナス(出荷は先月の〇・四%減→二・三%減へ拡大)。

押出し類は生産・出荷とも一六力月連續でマイナス(出荷は先月の五・五%減→三・五%減へ縮小)。

【輸出】アルミ新地金が前年比六一・二%減の九四t、二次合金が一三・一%減の一、三三五t、スクラップが三七・一%減の四、九〇七t、アルミ缶が三五一・二%増の五、〇五九t。

【見通し】

・自動車は生産が五・八%減。二月の国内販売台数が前年比四・六%減。生産が二力月連續マイナス、販売が四力月振りマイナス。生産が連續減少となつた。販売の方が一転四力月ぶりマイナスに。販売のマイナスが続くかどうか今後の動向に注目。

・住宅着工の動向については、全体として平成二十六年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響力らの持直しが続いてきたものの、足下では横ばいの動きとなつてゐる。引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。

・アルミ圧延・押出品生産数は、主力の押出しに続き、板類、輸出共に減少。

・アルミニウム二次合金 同合金地金等生産実績は、自動車生産の減少を受けて減少、さらに、鉄鋼系への出荷も大幅に減少。唯一期待の自動車販売が四力月振り減少。

・輸出 内需の低迷を受けて増加。特にア

ルミ缶が大幅増!

【価格・為替予想】
今月は、G20後の中国の景気対策と原

油の生産調整問題に左右される。

G20後の中国の景気対策に関しては、上海株がデッドラインと言われた三、五〇〇を大きく下回る二、七〇〇付近で推移しているものの、G20前に追加の金融緩和策や財政出動に言及し、財政・金融政策を総動員して景気を下支えする姿勢を強調したこと、また、実際に二十九日、追加金融緩和に踏み切ると発表、預金準備率を〇・五%引き下げたことから今後の追加的な対策に期待される。

原油減産問題に関しては、ロシアのノバク・エネルギー相が、大多数の産油国が増産凍結で合意したと述べた事や産油国は原油の供給を安定させる方法で今月中に合意するとも話したことから、原油が一時三四・七六ドルまで上昇し、期近物として一月二十八日以来ほぼ一力月ぶりの高値を付けたことから今後の供給の安定に期待される。

それらを踏まえた三月のアルミ価格は、中国が新たな景気対策などをを行い、原油の減産合意が行われた場合、二月高値の一段高一、六五〇ドルを予測。いずれかの場合には一、五五〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかつた場合、二月もう一段安値の一、四五〇ドル。

為替は、日本が先のG20で為替介入に関する、自制を求めるように釘を刺された事や、英のユーロ離脱懸念の再燃が今月のポイントとなるだろう。

それらを踏まえ予測は、上値は日本が何らかの為替対策を結果的に一切行わず、英國のユーロ懸念が再燃した場合安全資産の円買いから一一円台を予測。下値は、日本がさらなるマイナス金利策や金融緩和策を行い、英國のユーロ離脱懸念が後退した場合、一一七円を予測。

メークスクラップ購入価格は〇・十五円と予測している

◇KLT Mすず相場

四 日 一六・六〇〇

米ドル
トン

◇東工取(四日前引、限月四月)
四 金 四、五八四円

白金

三、五四七円

ルミ缶が大幅増!